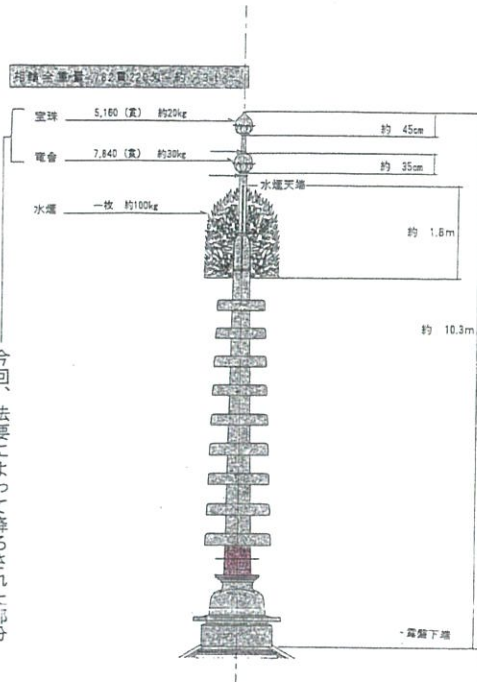


東塔相輪部模式図



維清原宮取宇
天宮即位八年辰辰之歲正月廿二日
中宮不食創此伽藍而鋪金未遂祀寫
陰仙大上天皇奉遷前緒遂成斯業
照先皇之弘誓光後帝之玄功追濟
生業傳厥切式於高麗敬勸貞金
其銘曰
龍蟠萬葉藥師如來大發誓願
運慈家行與聖王仰延冥助夏
荷靈宇莊嚴調御亭宇寶刹
舟奇去域福崇德劫慶隆萬

藥師寺東塔擦銘

維清原宮取宇天皇の即位八年、庚辰の歲建立の月、中宮の不愈したまふを以て、此の伽藍を創めたまふ。而るに鋪金未だ遂げたまはずして、龍蟠騰仙したまへり。太上天皇、前請に遵ひ奉りて、遂に斯の業を成したまふ。先皇の弘誓を照し、後帝の玄功を光し、道は群生を濟ひ、業は曠劫に伝ふ。高麗に式り、敢て貞金に勸す。其の銘に曰く、
巖々蕩々たり藥師如來、大いに誓願を發し、広く慈哀を運らしめたまふ。猶猶聖王、仰いでは冥助を延ぶ。爰に靈宇を飭り、調御を莊嚴したまふ。亭々たる宝刹、寂々たり法城。福は億劫に崇く、慶は萬齡に溢れむと。

- ① 東塔擦銘
- ② 建子の月、ケンネの月は十一月のこと。本文の立は子の誤り。
- ③ 藤仙 仙域にのぼること、即ち崩せられること。
- ④ 高麗 故人のこした偉業。
- ⑤ 貞金 堅たい金物。
- ⑥ 巖々蕩々 高く大きく大きいさま
- ⑦ 猶猶 聖師如來の慈悲を養えて
- ⑧ 亭々 今依塔擦銘改之
- ⑨ 寂々 今依塔擦銘改之
- ⑩ 慶 今依塔擦銘改之
- ⑪ 立 醜縁並群本共作「子」
- ⑫ 愈 群本・擦銘等作「愈」
- ⑬ 運 醜縁並群本等共作「運」
- ⑭ 請 醜縁並群本・醜縁・擦銘等作「請」
- ⑮ 光 群本・「式」
- ⑯ 眞 原本作「先」
- ⑰ 或 眞、今以醜縁・群本・醜縁等群本、改之
- ⑱ 運 原本作「通」
- ⑲ 供 今依塔擦銘改之
- ⑳ 亭々 原本作「亭室」、依塔擦銘改之

〔万葉地図〕
大和北部

Table with columns for year, month, day, and event. Includes entries for 643 (皇極 2年), 644 (和銅 1年), 645 (和銅 2年), 646 (和銅 3年), 647 (和銅 4年), 648 (和銅 5年), 649 (和銅 6年), 650 (和銅 7年), 651 (和銅 8年), 652 (和銅 9年), 653 (和銅 10年).

Table with columns for year, month, day, and event. Includes entries for 643 (皇極 2年), 644 (和銅 1年), 645 (和銅 2年), 646 (和銅 3年), 647 (和銅 4年), 648 (和銅 5年), 649 (和銅 6年), 650 (和銅 7年), 651 (和銅 8年), 652 (和銅 9年), 653 (和銅 10年).

3

薬師寺と天武・持統天皇

天武天皇が皇后の病氣平癒を祈願して薬師寺創建を発願された。しかし、天武天皇は寺の完成を見ないまま崩御なされた。その後、皇后が即位され女帝・持統天皇となつて、ご本尊を開眼された。薬師寺の伽藍の整備は、文武天皇の御代まで引継いで進められた。創建当初薬師寺は飛鳥藤原京(奈良県橿原市城殿町)の地に造営され、八世紀初めに平城遷都に伴い現在地西ノ京に移転された。今も飛鳥藤原京跡には本薬師寺《もとやくしじ》として遺構が残されている。

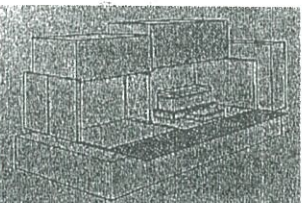
天武・持統天皇陵について

天武天皇(てんむてんのう、第四十代天皇) 壬申の乱(六七二年)で天智天皇の息子である大友皇子(弘文天皇)を破り勝利して皇位に就いた。兄である天智天皇の遺志をつぎ、中央集権国家の形成を推し進めた。飛鳥浄御原令を制定し律令制の基礎を築いた。朱鳥《あけみどり》元年(六八六年)九月九日、五六歳で崩御された。

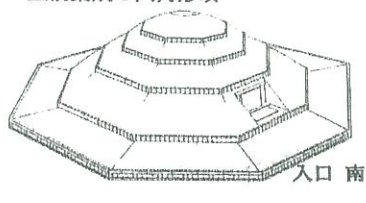
持統天皇(じとうてんのう、第四十一代天皇)

天武天皇の皇后であり天智天皇の娘、鴨野讃良《うののさらら》。天武天皇とともに中央集権国家の確立に尽力した。天武天皇亡き後即位し藤原京の造営を行っている。七〇二年に亡くなった持統天皇が、大化薄葬令により天皇としては初めて火葬され、七〇三年に天武天皇埋葬のために築かれた陵墓に合葬された。

天武天皇 持統天皇 檜隈大内陵 (別名は野口王墓古墳《のぐちおうぼこふん》)



五段築成の八角形墳



天武天皇・持統天皇

